

私たちは自分自身のことをどのように理解していますか？私たちは「自分のキャラクターは〇〇である」という表現を良く用います。キャラクターは性質という意味です。しかし本当の意味で自分の性質がどのようなものであるか、理解していないのでないでしょうか。自分の性質を形成するのは第一段階では3歳までに子供は親を見て何のために生まれ愛されているのかを、意識していきます。それが基となり第二段階に入り25歳までに脳の伝達回路が決まります。第二段階において、親によって得た概念や友人、教師から与えられた概念が自分の性質となっていきます。私たちは周りから受けたもの以上の品格を持つことが出来ません。3歳までは親から学び、それ以降は25歳までに出会った人の品格の中から自分の品格を決定していきます。私たちの今の品格は自分自身から出たものでなく誰かから受けたものです。では25歳を過ぎてからどのように品格を変えることが出来るのでしょうか。私たちは、この人になりたいと思う人がいますか。歴史上の人物や尊敬できる人などから何かを学び、自分の生き方に影響を与える存在が居るのでしょうか。私たちは学ばなければ成長することが出来ません。モラルハザードという言葉が良く使われています。これは「道徳の腐敗」です。最初は保険会社が使っていた言葉でしたが、今は別の意味で使われている言葉となりました。私たちが「このように生きていく」というモラルがなくなると周りから入ってくる情報によって右往左往してしまうことです。それは自分が無く生きる道が定まっていな人に見られます。反対に品性とはその人の生きる道です。品性が有る人は右往左往しない人です。品性がないなら環境や物事を変えることが出来ません。このことはクリスチャンにも当てはまります。「神様がいるから少々大丈夫」「祈っていれば大丈夫。後はよろしく」あなたにはこんなところはありませんか？（ローマ5：3～8）練られた品性は、ギリシャ語でドキメーという言葉が使われています。このドキメーという言葉は、「合格された品性」という意味です。私たちクリスチャンはこの品性をキリストに見出しています。私たちは自分を苦しめる人をなかなか愛することが出来ません。しかし私たちに出来るようになる理由があります。聖書には敵をも愛したキリストの姿を見ることが出来ます。キリストは実在した人物であり、キリストから学ぶことによって自分の品性を変えることが出来ます。私たちクリスチャンの品性とは**①キリストの道です**。（ヨハネ14：6）「私は道であり、真理であり、いのちなのです。」とあります。この真理という言葉はギリシャ語の品性（ドキメー）の総称であるギリシャ語で“アレセイヤ”という言葉が使われています。このアレセイヤという言葉は合格済みの品性という意味も含まれています。合格済みであるということは誰かに評価されることで完成されます。私たちは誰かに合格された品性を持っていますか。誰かとは周りの人々の評価ですが、当時の文化では人の評価イコール神様の評価ということになります。そのためにはまず、キリストから学ばなければいけません。（ピリピ2：22）「りっぱな働きぶり」もドキメーという言葉が使われています。テモテも周りから評価されたことを見る事が出来ます。私たちも周りから評価されるようにキリストから学び歩んでいきましょう。クリスチャンの品性とは**②従順の品性です**。（Ⅱコリント2：9）ここに書かれている従順というのはただ単に従うという言葉ではありません。ここの従順は「ドキメー（合格された品性）」というギリシャ語が使われています。従順とはキリストの品性に対して従順であって、キリストに対して盲従するということではありません。あなたは品格の部分でキリストに従順でしょうか。立派なことを言っても品性が伴っていないと意味がありません。キリストの品性に従う行動をしていきましょう。クリスチャンの品性とは**③錬達の品性です**。（Ⅱコリント8：2）激しい試練という言葉も「ドキメー」という言葉が使われています。試練を通して練られた品性を生み出していきます。今試練にあっているのならそれが品性につながります。試練に耐えることが出来なければキリストの品性にあずかることが出来ません。イエス・キリストが「品性がある人」といわれたのは、3日間の鞭打ちに耐え、愛するもののために十字架にかかり、十字架上で、自らを苦しめた人たちを愛し赦したからです。訓練に耐え抜いたから「品性の主」と言われたのです。イエス・キリストが十字架上でいった「完成した」には「ドキュメーの完成」という意味もあるのです。パウロ自身もさまざまな訓練を通してキリストの品性を学びました。ですからパウロは自分の経験してきたことを塵あくたと表現し、キリストから学び得たものを「私から学びなさい」と言っています。私たちはキリストを知るものとして、品格を持たなくてはなりません。私たちは学ぶべき人がいます。しかし学ばないのは問題です。自らの品性に気付いて訓練に耐え抜いてください。私たちは誰から見ても品格のある人にならなくてはなりません。この錬達という字は金へんを使っています。金は火の中で精錬されます。不純物を取り除き純度の高い金へと変わっていきます。私たちも訓練を通り、品格を持っていると言われるようになります。弱い時でもキリストの道を歩んでいるから強いといえるようになります。不足に目を向けているのなら品性を持っていないことになります。自分の道を持っていないと、訓練のときに逃げてしまいます。訓練に耐え抜きキリストの品性を持つために正しい道を歩んでいきましょう。（要約者：平澤&渡辺）